

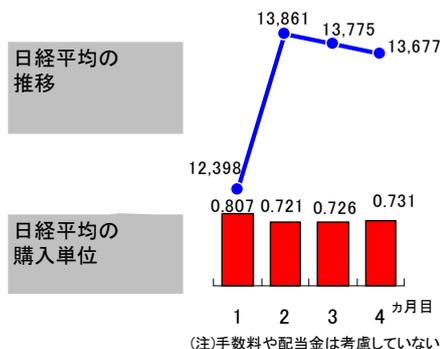
日本版ISA(NISA)にはコツコツ積立投資が適している？

少額投資非課税制度(日本版ISA=NISA)に投資する方法として、現役世代、特に若年層を中心に、積立投資が適していると言われる。理由として、主要な専門メディアは次の様に述べている。ごく一部を引用すると次の通り。

「『ついつい『売却益が非課税なので、NISAでは高リターンを狙える商品を買おう』と考えがちだ。しかし、高いリターンが望める商品は当然、高リスクで裏目に出れば大きなマイナスになる。値下がりに弱いNISA向きとは言いがたい。それでも高リスクの株式投資で高リターンを狙いたい投資家もいるだろう。その場合、個別株ではなく株式投信の、積み立て投資が選択肢となる。売買タイミングを分散することでリスクを下げることができ、NISA向けの申りリスク・申りリターン投資に近づけることができるからだ。』(ダイヤモンドZAi2013年8月号)、「NISA口座の投資上限額は年間100万円ですが、仮に100万円ずつ投資商品を購入するとすると、それ自体がドルコスト平均法の役割を果たしていることとなります。さらに、年間100万円の上限額の中で、月に一度、2カ月に一度というように投資商品を購入する時期を分散すれば、さらなる時間分散が図れます。そもそもまとまった資金のない若年層の方であれば、コツコツと積立投資をすることも考えられるでしょう。』(2013年6月15日付近代セールスの金融庁総合政策室・油布志行室長)———。

積立投資、ドルコスト平均法について、図解で簡単に説明をすると、下記の通り。

2013年3月末から6月末まで4ヶ月、
毎月1万円定額の積立(ドルコスト平均法)により
日経平均を購入し続けると…



ドルコスト平均法…

定期定額で購入する投資手法。

価格が安い時には多く、高い時には少なく購入する。定期1単位で購入する投資手法より平均コスト(元本)を低く抑えられるとされる。

ただ、リスク資産の積立なので、リスクも積み立てられてリスクが増大していることに注意。積立終了時の市場に大きく影響される。

積立終了時、積立目標達成時においても、その額のリスクリターンを許容出来る場合に奨められる。

2013年3月末から6月末まで4ヶ月、
毎月1万円定額の積立(ドルコスト平均法)により日経平均を買う場合(上段)と
毎月1単位定額の積立により日経平均を買う場合(下段)の損得

積立方法	日経平均	1万円定額で		積み立て累計額の時価(円) B1	元本(円) C1	平均単価(円) C1/A1	損益額(円) B1-C1	損益率(%) (B1-C1)/C1
		買える単位	積み立て累計単位 A1					
1万円定額	2013年3月	12,398	0.807	¥10,000	¥10,000	¥12,398	¥0	0.00
	2013年4月	13,861	0.721	¥21,180	¥20,000	¥13,089	¥1,180	5.90
	2013年5月	13,775	0.726	¥31,048	¥30,000	¥13,310	¥1,048	3.49
	2013年6月	13,677	0.731	¥40,829	¥40,000	¥13,400	¥829	2.07
	合計							
1単位	日経平均	1単位で		積み立て累計額の時価(円) B2	元本(円) C2	平均単価(円) C2/A2	損益額(円) B2-C2	損益率(%) (B2-C2)/C2
		買える単位	積み立て累計単位 A2					
1単位	2013年3月	12,398	1.000	¥12,398	¥12,398	¥12,398	¥0	0.00
	2013年4月	13,861	1.000	¥27,722	¥26,259	¥13,129	¥1,463	5.57
	2013年5月	13,775	1.000	¥41,324	¥40,033	¥13,344	¥1,290	3.22
	2013年6月	13,677	1.000	¥54,709	¥53,711	¥13,428	¥999	1.86
	合計							

1万円の定額つまり、ドルコスト平均法の方が有利となっていた。

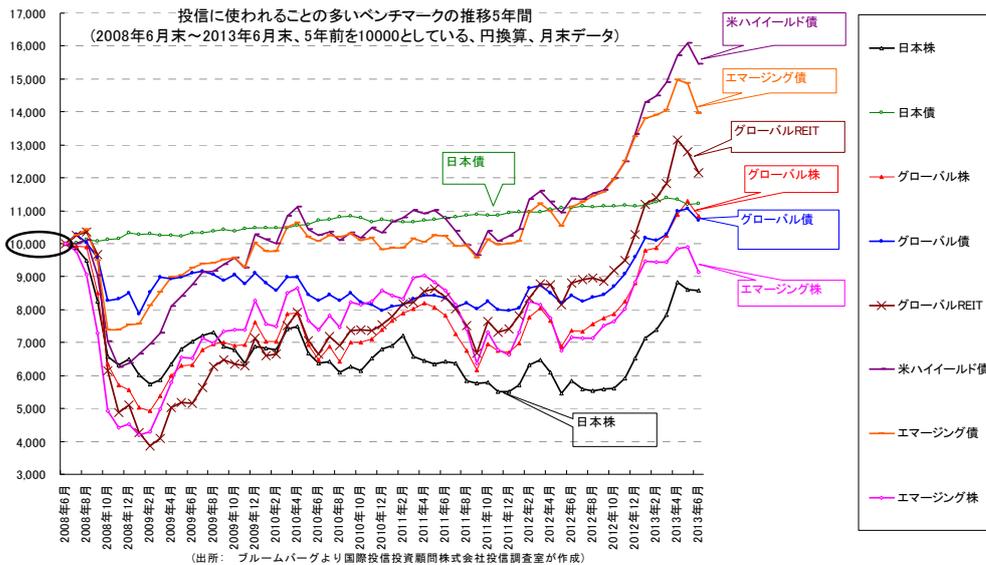
(出所：ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室作成)

[参考ホームページ]

ダイヤモンドZAi2013年8月号…「 <http://www.diamond.co.jp/magazine/159850813.html>」、2013年6月15日付近代セールス…「 <http://www.kindai-sales.co.jp/item/21306.htm>」。

エマージング債、グローバル REIT、エマージング株、米ハイイールド債が総じて良好

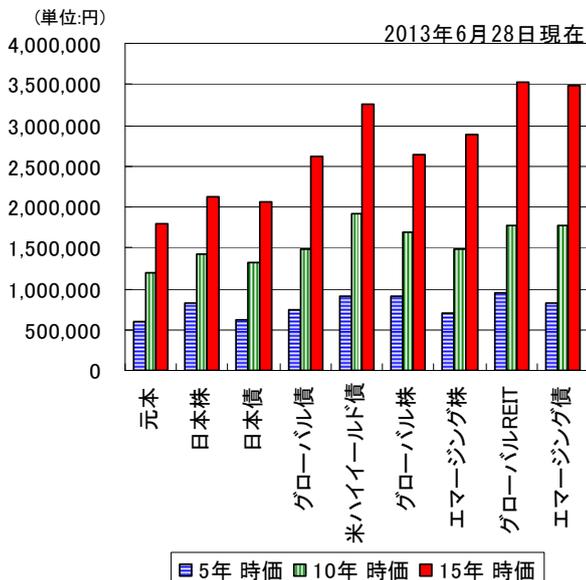
日本版 ISA(NISA)に適していると言われる積立投資(ドルコスト平均法)を検証するため、投信に使われることの多いベンチマークを使う(*円換算パフォーマンス)。尚、積立投資でなく、NISA の現実的な投資法については、2013 年 4 月 30 日付日本版 ISA の道 その 10「日本版 ISA には高いリターンが期待できるものが向いている? ~ISA のメリットとデメリット、『積立→元本払い出し』という菱形等を理解~」で行った通り。また、積立投資も 2013 年 2 月 8 日付日本版 ISA の道 その 2「ISA 口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立投資を考える。」で行ったが(URL 等は後述の[参考ホームページ]参照)、この時は 2012 年 12 月末までの検証で、今回は 2013 年 6 月末までの検証となる。この半年間、日本株を始めベンチマークがかなり大きく動いたことから(下記グラフ)、新たな検証はとても参考になると思われる。



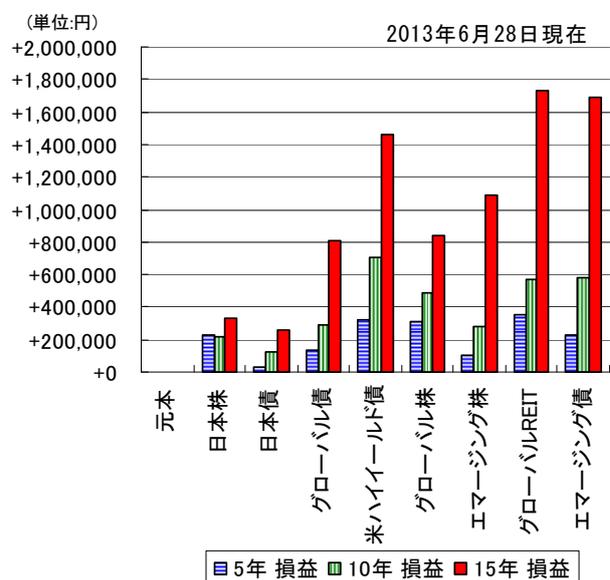
毎月末に 1 万円ずつ積立購入してきたケース、つまり、毎月 1 万円定額の積立(ドルコスト平均法)を検証する。日本版 ISA(NISA)の年間上限は 100 万円だが(*単純に 12 で割ると月 8.3 万円程度となるが)、ここでは分かりやすく 1 万円の購入としている。積立投資期間は 5 年・10 年・15 年とした結果がグラフ①の通りである。左側のグラフは 2013 年 6 月 28 日時点の時価、右側のグラフは損益(*手数料等は無視)。総じて利益の高い順に、グローバル REIT、エマージング債、米ハイイールド債(*米ハイイールド債は 10 年で 1 番高利益となっている(*どれも為替ヘッジなし))。

グラフ①

2013年6月28日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の
 現在の 時価 *左から投資期間 5年・10年・15年。



2013年6月28日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の
 現在の 損益 *左から投資期間 5年・10年・15年。



6カ月前 2012年12月末までの検証では、総じて利益の高い順に、エマージング債、グローバルREIT、米ハイイールド債だったので*(2013年2月8日付日本版ISAの道 その2~後述の参考ホームページ参照)、大きく変わった感じはない。ただ2012年12月末までの検証では「10年と15年が損失」となっていた日本株が利益となっていることが大きく違う。

この様に、リスク資産の積立投資では、積立の終わり(出口)が極めて重要となる。「積み立て投資は、いつやめるのがいいのかまでを真剣に考える人は少ない。だが、肝心なのは『終わり』のタイミング。…(略)…。当たり前の話だが、積み立てか一括投資かにかかわらず、最終的な投資リターンは売却価格によって決まる。」(2012年4月15日(日)付日経ヴェリタスの通りである。

そこで、以上の2013年6月末だけでなく、2012年末、2011年末、2010年末、2009年末、2008年末、2007年末、2006年末と7つの時点で検証する。

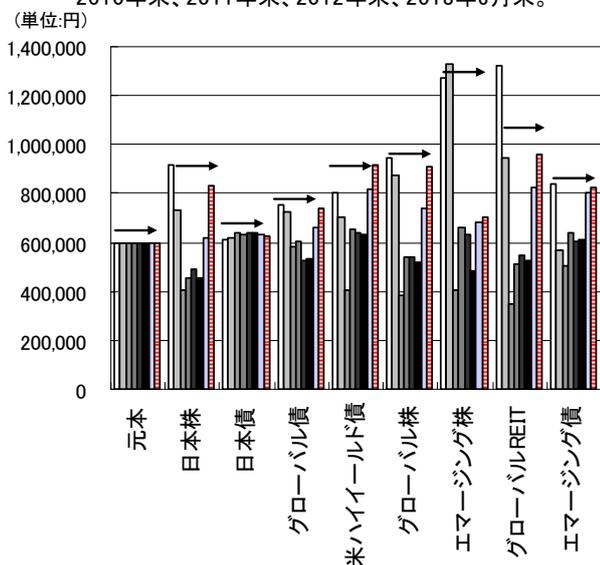
まず投資期間5年であり、左側のグラフが時価で右側のグラフが損益を示すのは先と同じである(グラフ②参照)。2006年と2007年はエマージング株とグローバルREITがとても良かったが、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)後、損失となり、2012年と2013年6月に回復している感じである。日本株(TOPIX 配当込み)は、2008年から2011年の年末まで損失となり、2012年にようやく黒字に転じたものの小さく、2013年の株高で6月末は大きく利益を出したことがわかる。

グラフ②

投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年6月末。

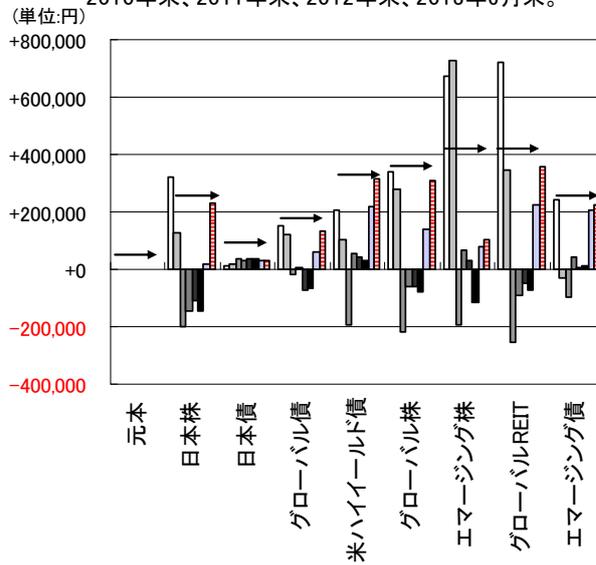


□ 2006/12/29 □ 2007/12/31 □ 2008/12/31 □ 2009/12/31
 ■ 2010/12/31 ■ 2011/12/30 □ 2012/12/31 ■ 2013/6/28

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年6月末。



□ 2006/12/29 □ 2007/12/31 □ 2008/12/31 □ 2009/12/31
 ■ 2010/12/31 ■ 2011/12/30 □ 2012/12/31 ■ 2013/6/28

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

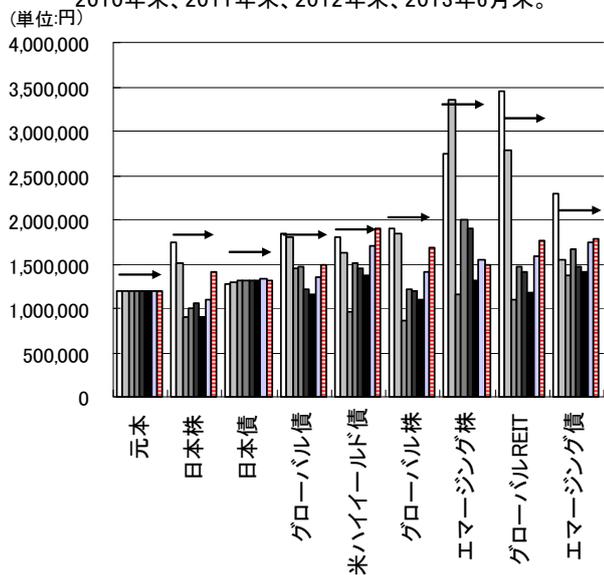
次いで10年である(グラフ③参照)。5年に比べ全般的に利益が増えてくる。エマージング債は5年では時期によっては利益や損失を出していたが、10年投資すれば、いずれの時期でも利益を出している。日本株(TOPIX 配当込み)は、2008年から2012年の年末まですべて赤字であったが、2013年6月末までの10年投資で黒字化した。

投資期間 10年

グラフ③

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年6月末。

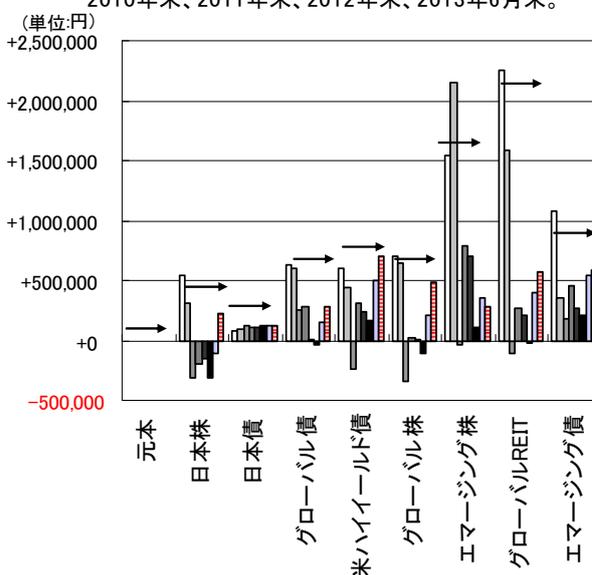


□ 2006/12/29 □ 2007/12/31 □ 2008/12/31 □ 2009/12/31
■ 2010/12/31 ■ 2011/12/30 □ 2012/12/31 ■ 2013/6/28

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年6月末。



□ 2006/12/29 □ 2007/12/31 □ 2008/12/31 □ 2009/12/31
■ 2010/12/31 ■ 2011/12/30 □ 2012/12/31 ■ 2013/6/28

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

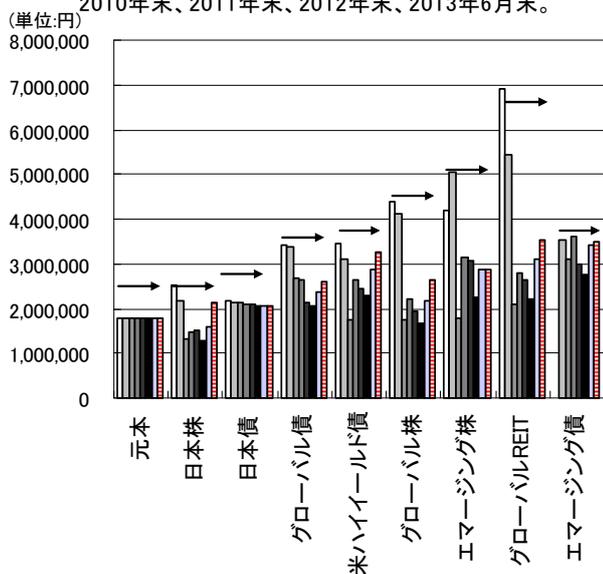
そして15年である(グラフ④参照)。15年の積立投資では黒字化する傾向がより鮮明となった。エマージング債が安定的に高い利益で、グローバルREITと並びいずれの期間でも利益となった。グローバル債や日本債も利益こそ小さいが、やはり安定的な感じである。

投資期間 15年

グラフ④

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年6月末。

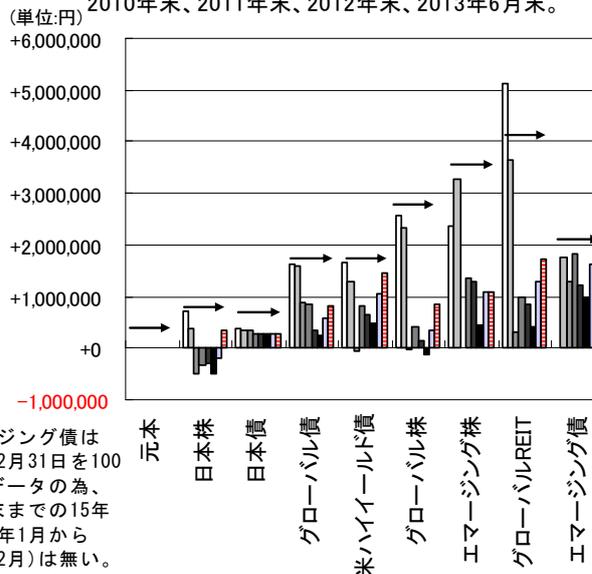


□ 2006/12/29 □ 2007/12/31 □ 2008/12/31 □ 2009/12/31
■ 2010/12/31 ■ 2011/12/30 □ 2012/12/31 ■ 2013/6/28

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年6月末。



□ 2006/12/29 □ 2007/12/31 □ 2008/12/31 □ 2009/12/31
■ 2010/12/31 ■ 2011/12/30 □ 2012/12/31 ■ 2013/6/28

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

*エマージング債は1993年12月31日を100とするデータの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

以上、エマージング債、グローバル REIT、エマージング株、米ハイイールド債が総じて良好な結果であったことがわかる。これら 4 資産をリスクに応じ単体で投資をしてもいいし(*投信なので銘柄は十分に分散されている)、4 資産を同時に分散投資しても良さそうである。もちろん、さらにリスクを抑えるべく、日本債やグローバル債も良い選択肢と思われる。このあたりは、投資家のリスク許容度次第であろう。

日本版 ISA(NISA)では、以上の積立投資(ドルコスト平均法)もうまく活用、少しでも、「家計の中長期的な資産形成」(2013 年 6 月 24 日付金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」～後述の参考ホームページ参照)の後押しとなってほしいものだ。

[参考ホームページ]

2013 年 2 月 8 日付日本版 ISA の道 その 2「ISA 口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立投資を考える。エマージング債やグローバル REIT、ハイイールド債、エマージング株などが注目(DC/確定拠出年金にも活用可能)」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130208.pdf>」、2013 年 4 月 30 日付日本版 ISA の道 その 10「日本版 ISA には高いリターンが期待できるものが向いている? ~ISA のメリットとデメリット、『積立→元本払い出し』という菱形等を理解～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130430.pdf>」、2013 年 6 月 24 日付金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」…「<http://www.fsa.go.jp/news/24/syouken/20130624-1.html>」。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。